

平成 26 年度全国学力調査笠間市検討委員会作成資料の活用にあたって

笠間市教育委員会学務課指導室

平成 26 年 4 月に行われた全国学力・学習状況調査について、市では市教育研究会の協力のもと検討委員会を立ち上げ、結果の分析を通して「平成 26 年度笠間市の現状（成果と課題）」、「平成 26 年度授業改善プラン」, 「平成 26 年度学力状況における課題解決のための調査問題」の 3 つの資料を作成いたしました。検討委員会での分析結果から明らかになった学力状況における課題の解決を目指し、学習指導に対する PDCA 検証・改善サイクルを確立するため、本資料の活用をお願いいたします。

つきましては、以下に示した「授業改善プラン」実施上の留意点をご参照いただき、国語科及び算数・数学科における指導の工夫・改善にお役立て下さい。

国語科授業改善プラン

小・中学校それぞれに課題はありますが、共通したものとしては「文章や資料の内容を的確に読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめて書くこと」（記述）が挙げられます。単に「書くこと」の領域の指導だけで解決できる課題ではなく、他領域との関連指導が重要です。

そこで今年度は、他領域との関連指導の充実を図るため、「古典」の学習（中学校）において「理由や根拠を明確にして書く」学習活動を位置づけました。次の点に留意しながら、児童生徒の実態を踏まえ「授業改善プラン」の実施をお願いいたします。

- 資料や文章を正しく読み取るために、辞書を活用して意味を調べたり、文章に沿って意味を解釈したりする活動を充実させる。
- 課題に対して、ひとりで考えたりみんなで話し合ったりする時間を十分に確保し、自らの意見や考えをもって学び合えるような場面の充実を図る。また適切な個別指導を計画的に実施する。
- 文章の構成・段落の役割などに注意しながら、わかったことや自分の考えを明確に書く活動を重視する。その際には、内容や字数、用いる語句、表記や表現、書く時間、伝える相手など児童生徒の実態に合わせて条件付けをし、意欲をもって書く活動に取り組めるようにする。
- 授業改善プラン実施対象学年以外の学年や、対象外の単元の学習においても、系統性や関連性を意識しながら、読んで分かったことや考えたことを書く活動を取り入れるようにする。

算数・数学科授業改善プラン

小・中学校ともに、どの領域の設問においても課題と考えられる内容がありますが、特に「数学的な見方や考え方を図、式、言葉で表現する」問題において正答率の低い問題が目立ちます。また、小学校では「小数倍」に関する理解の不足から、「小数倍された大きさを図で捉えること」が十分にできていないことが課題です。中学校では、1 次関数のグラフの交点の意味を捉え問題解決の方法を説明する問題や、図形の性質について構想を立てて証明する問題において誤答率及び無答率が高く、課題となりました。

そこで、次の点に留意しながら「授業改善プラン」を実施願います。

- 「数」や「式」、「言葉」「図」などで表したものを相互に関連付けながら考え、関係性を明らかにしながら実感を持った理解ができるようにする。
- 自力解決場面や集団解決場面等において、個々の児童生徒が問題解決の見通しや実際の処理について数学的な考え方を記述する活動を重視する。特に、根拠に基づき筋道立てて考えたことを表現したり、数値や図形など具体例を取り上げて事象が成立（または不成立）することを考えて表現したりする活動を大切に扱う。（その際、学年の発達段階に応じて、記述する内容や方法、文字量などを適切に設定する。）
- 既習事項など関連する学習内容を振り返って考えることができるように、学習内容の系統を確認して指導に当たる。
- 授業改善プラン実施対象学年以外の学年においても、数学的な思考・判断を記述する活動や、系統性・関連性を意識し既習事項を振り返って考える活動の充実を図る。